

# ECO ツーリズム

**JAPAN ECOTOURISM SOCIETY**  
100号  
2024. Winter  
Vol.26 No.2

## 巻頭言

### エコツーリズムを通して世界の平和を実現したい

海津ゆりえ (文教大学教授、日本エコツーリズム協会運営役員・会報編集長)

## 通巻100号記念

### 特集

# エコツーリズムの 業界をつくる 協会(JES)の役割

Go to the next stage!

世界のエコツーリズムサイト  
ハワイ州・アメリカ合衆国

エコツーリズムの現場から  
エコツアー等の市場規模  
~エコツアーがもたらす経済効果について

- JES 学生会活動報告
- エコツーリズムサイト便利
- クリッピング海外情報
- JES レポート
- 事務局通信

## 事務局通信

## 編集後記

海外旅行の水先案内人として長らく茶の間を賑わせていた兼高かおるさんは、当協会の前進であるエコツーリズム推進協議会の発足にこの一歩に賛同し「でもねえエコはエコノミーの安い旅行と捉える人もまだ多いからまずはその辺りからはじめないとね」と言いながらも発起人代表を引き受けてくれた。本誌の表題をECO ツーリズムとしたのは、まずECOはEcologyの意味であることと定着させる必要があるとの思いもあった。

それから四半世紀、人間同士の愚かな争いはやまず、宇宙船地球号の危機は依然としてその度を重ねている。

しかし創刊から25年日本唯一のエコツーリズム専門誌として100号を重ねた小冊子がわが国でのエコツーリズムの普及に果たした役割は決して小さくない。エコツーリズムという言葉が確実に社会に定着しつつあることをまずは喜びたい。

(高梨洋一郎 JES 副会長)

## 法人会員紹介

### 日産自動車株式会社

脱炭素化に貢献する電気自動車で観光地を訪問すると割引など優遇を受けられる施策を各地で展開しています。



### 合同会社 ルーツ&フルーツ 「富士山ネイチャーツアーズ」

「富士山の知られざる魅力に出会う自然旅行」をテーマに富士山でエコツアーの企画実施と環境保全活動を実施しています。



### 京都一周トレイル会

京都の自然・文化等を楽しんでいただく機会を創出するため、トレイルコースの開設や保全、活用などに取り組んでいます。



### 認定NPO法人エバーラスティング・ネイチャー(ELNA)

「豊かな海と人々の暮らしや文化が共存できる社会の実現」を目指し、アジア地域で海洋生物の保全活動を行う。



## 会議等実施・派遣報告

(2023年12月~2024年3月)

- 12/2 第15回全国エコツーリズム学生シンポジウム開催
- 12/8 神津島村エコツーリズム推進協議会開催
- 12/13 滋賀県長浜市フォーラム「観光を軸とした持続可能な地域づくりとは」開催
- 12/19,21 奄美群島エコツアーガイド更新講習会開催
- 1/10-11 滋賀県長浜市ガイド技術講習会開催
- 1/15-17 エコツーリズムガイド講習会in伊那開催
- 2/8 農業遺産認定地域の情報発信に関する研修会(農水省)
- 2/15,27 環境省人材育成インバウンド研修開催
- 2/16 内閣府SDGs勉強会出席
- 2/22 奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会出席
- 2/26 第19回エコツーリズム大賞表彰式  
奈良県教育委員会・ALネットワーク運営指導委員会出席(web開催)
- 3/13 (一社)日本サステナブルツーリズムイニシアティブ設立シンポジウム出席
- 3/26 JES理事会
- 3/29 下呂市エコツーリズム推進協議会出席

## JES行事予定(2024年4月~)

- 5/22 JES理事会
- 6月 JES総会

■法人会員 企業・団体名: NPO法人赤目四十八滝渓谷保勝会 / 奄美群島エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人移住・交流推進機構 / 岩手県二戸市 / 合資会社浦内川観光 / 一般社団法人エコロジック / 認定特定非営利活動法人 エバーラスティング・ネイチャー / 愛媛県 / NPO 法人奥入瀬自然観光資源研究会 / 大分県アウトドア事業推進協議会 / 一般社団法人小笠原村観光協会 / NPO 法人おきなわ環境クラブ / 沖縄県環境部自然保護課 / 有限会社オズ / 株式会社風の旅行社 / 環白神エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人休暇村協会 / 京都一周トレイル会株式会社 / 近畿日本ツーリスト株式会社公営営業支店 / くまの体験企画 / ぐりーんびーす株式会社 / 下呂市エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人元気インターナショナル / 神津島エコツーリズム推進協議会 / 五色ヶ原の森案内人の会 / こしきツアーズ株式会社 / 株式会社コスモスイニシア / 株式会社五千尺 / サービス・ツーリズム産業労働組合連合会 / 株式会社山岳太郎 / 株式会社ジェーシービー / 株式会社 JCB トラベル / 一般社団法人自然公園財団 / 株式会社 JTB / 株式会社 JTB ガイアレック / JTB 協定旅館ホテル連盟 / JTB グループ労働組合連合会 / 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン / 一般社団法人全国旅行業協会 / 全日本空輸株式会社 / 大山山麓・日野川流域観光推進協議会 / 株式会社高田松原 / 特定非営利活動法人たてやま・海辺の鑑定団 / 谷川岳エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人対馬 CAPP / 東京都 / 東京都小笠原村 / 公益財団法人東京観光財団 / 東急株式会社 / 東急ホテルズ&リゾーツ株式会社 / 株式会社東武トップツアーズ株式会社 / 公益財団法人 トロロのふるさと基金 / 東北リゾートサービス株式会社 / 一般社団法人 大山観光局 / 富山県上市町 / 公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社 / 株式会社 日光自然博物館 / 日産自動車株式会社 / 公益社団法人日本観光振興協会 / 日本航空株式会社 / 公益財団法人日本交通公社 / 公益財団法人日本修学旅行協会 / 公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会 / NPO 法人日本ヘルスツーリズム振興機構 / 株式会社日本旅行 / 一般社団法人日本旅行業協会 / 株式会社博報堂 / 一般社団法人幅多広域観光協議会 / 富士北麓ユニバーサルアドベンチャーツーリズム協議会 / 公益社団法人富士宮市観光協会 / 東近江市エコツーリズム推進協議会 / 東日本旅客鉄道株式会社 / NPO 法人飛騨小坂 200 滝 / 株式会社ピッキオ / 株式会社フィールド & マウンテン / 福島県北塩原村 / 富士急行株式会社 / ヘルトラ株式会社 / 北海道弟子屈町 / 北海道旅客鉄道株式会社 / Mt.6 / 一般社団法人 摩周湖観光協会 / 一般社団法人松本観光コンベンション協会 / 三井住友海上火災保険株式会社 / 株式会社未来政策研究所 / 宮崎県串間市 / 株式会社モンベル / 公益財団法人屋久島環境文化財団 / 株式会社八ヶ岳登山企画 / 株式会社やまぼうし / NPO 法人湯来観光地域づくり公社 / 合同会社 ルーツ&フルーツ「富士山ネイチャーツアーズ」 / 財団法人ロングステイ財団 (2024年3月末現在)

## ECO ツーリズム Vol.26 No.2 通巻 100 号 Winter 2024

発行 一般社団法人日本エコツーリズム協会 Japan Ecotourism Society (JES)  
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケビル3階  
TEL. 03-5437-3080 FAX. 03-5437-3081 Email. ecojapan@alles.or.jp Web. https://ecotourism.gr.jp/

発行日 2024年3月31日  
発行人 田川博己(会長)  
編集長 海津ゆりえ(運営役員)  
企画・編集 高梨洋一郎(副会長) / 山田桂一郎、辻野啓一(運営役員) / 高野千鶴、赤間亜希(事務局)  
デザイン 株式会社アートポスト

表紙写真: 高知県黒潮町・砂浜美術館(第19回エコツーリズム大賞受賞)

# エコツーリズムを通して 世界の平和を実現したい

本誌『季刊ECOツーリズム』は1998年7月に創刊号、以後概ね年4回発行を続けて25年。このたび100号をお届けできたこと、会員の皆様にご感謝申し上げます。100号の節目に際し、まずはこれまでの会報を振り返り、次の100号に向けた展望を論じてみたいと思います。なお、バックナンバーはホームページで閲覧頂けますので、ぜひご利用ください。

エコツーリズムとは何か。  
夢を論じた黎明期の会報

「エコツーリズム」は、自然がもつ価値を守りながら伝え、活かし、持続的な地域社会を創るという考えです。その時の自然は海外では人が手を加えない原生的自然が多く、日本では人が関わってきた身近な自然が中心となります。エコツーリズムは20世紀後半の国際観光ブームのただ中で生まれ、世界共通のキーワードとなりました。

創設当初の数年の会報では「エコツーリズムとは何か」を論じる記事が多く掲載されています。創刊号(1998)の冒頭、会長に就任いただいた兼高かおるさんは「自然環境という固有の文化を護りながら、地球に優しい観光のあり方を推進していく」という意図のもとに、このエコツーリズム推進協議会(注1)が誕生することになりました。…(中略)…旅行者、地域住民、旅行会社、研究者、そして行政の五角形を構成する関係者の方々が一堂に会し、情報交換を重ねながらエコツーリズムの健全な推進の道を一歩一歩着実に歩んでいきました。日本エコツーリズム協会(JES)の役割を簡潔に宣言しています。実は会報の編集やJESの運営に迷った時、私が読み返すのがこのページです。2号以降もさまざまな識者がエコツーリズムの哲学を論じています。印象に残る言葉をいくつか拾い出します。

エコツーリズムの実体化の過程で  
共有してきた課題と模索

僅か16ページの冊子で、毎号私たちは国内外さまざまなエコサイトを旅し、エコツーリズムの理念や課題、先進事例等を共有してきました。特集やインタビューでは、その時々で議論や情報共有が必要な話題を発信してきました。継続的に取り上げているトピックをいくつか挙げてみましょう。

### ■歩く旅、歩く道への着目

2000年に裏磐梯で開催した「国際エコツーリズム大会」歩く旅を考える」を機に、JESは歩く旅やトレイルに着目してきました。国内各地の探勝路、英国のフットパス、米国3大トレイル、最近ではヨルダントレイルを取り上げました(99号(2023))。信越トレイルやみちのく潮風トレイル生みの親・加藤則芳氏へのインタビュー(36号(2007))は、今では貴重な記事となりました。

### ■エコツーリズム認証制度

設立当初、「エコツーリズム認証制度(仮称)」の確立を目指して勉強会を開始したJESは、海外の認証制度などの事例研究を重ねました。10号(2000)ではNEAPPやグリーン

ン・グループ(GSTC)の前身、ブルーフラッグ等の先進事例を紹介しています。現在施行中の、良質なエコツアーを推奨する「JESグッドエコツアー」(2005)はその成果です。

### ■ガイド、インタープリターの養成を考える

北海道がアウトドア資格制度を施行した2002年以降、ガイド人材養成に光が当たるようになりました。24号(2004)ではインタープリターの座談会を開きましたが、その際の登壇者は今も第一線で活躍しています。この頃、国レベルのガイド資格創設の議論が盛んに行われましたが、未だ創設には至っていません。

### ■震災復興とエコツーリズム

2011年の東日本大震災は、全国に衝撃を与えました。その年の10月に予定していた若手県二市市の大会は予定通り開催し、「地域文化食」に光を当てた感動的な復興エコツーリズム大会となりました。人という宝同士が出会うエコツーリズムを通じた交流が、心の復興を支えることを確認したのです。JESでは会員が被災地を支援するエコツーリズム事業を支援し、その成果を会報で伝えました。

### ■国のエコツーリズム政策との協働

国のエコツーリズム政策支援は、今後もJESの役割です。環境省が主催した「エコツーリズム推進会議」(2003-04)の成果であるエコツーリズム大賞(2005)は、JESが運営を引き継ぎ今年で20回目を迎えます。2007年に議員立法で成立した「エコツーリズム推進法」は、元環境庁長官・愛知和男会長(当時)の指導の下、法案成立まで運動した成果です。法案可決時の会長のガッツポーズは忘れられないシーンで(2)



海津ゆりえ  
Yurie Kaizu  
文科大学教授  
日本エコツーリズム協会運営役員  
会報編集長

す。早速会報号外を発行しました。以後は各認定地域と連携し、会報でも随時紹介しています。

### ■エコツーリズム推進地域が直面する課題

「ちょっと先の会報予告

エコツーリズムは、常に新しい課題に直面しています。現在、尋ねられる頻度が増えているトピックとして、次の2つがあります。

### ①地域におけるガイド団体・エコツーリズム組織の次のステップをどう築くか

エコツーリズムに長年取り組んできた地域では、次の段階に進むための方策に悩んでいます。存在が当たり前になってきて、目指す方向性が見えなくなっている、ガイドの質の低下、地域一体で守るべきルールを策定できない、エコツーリズム協会や推進協議会が形骸化している、合意形成のためのコミュニケーションを取りづらいうなど、相談しづらく深刻な課題です。②エコツーリズム類似事業をどう捉えたら良いか

国の観光立国推進計画の中で、国立公園＝National Parkと読み替え、国立公園の観光政策が進められています。その過程で、アドベンチャー・ツーリズム、自然体験活動促進計画、インタープリテーション計画など、新たな計画や事業が求められるようになりました。エコツーリズムとの関係や棲み分け

けに戸惑う地域が出てきています。

以上、喫緊の課題を取り上げましたが、いずれ特集を組んで議論を整理する必要があると考えています。誌上でまとめきれない場合は、議論を交わせるコミュニケーションの場を設ける必要があるかも知れません。

### 小さな声を聴き取るエコツーリズムの旅が、 世界平和への道をひらく

「美しい日本を世界に伝え、地球を平和にする」ことを目指してJESはエコツーリズムを普及する活動を始めました。前者は少しずつ進んでいるかもしれませんが、後者は道半ばどころかほとんど遠い現実にあります。世界を巻き込んだ感染症は人と人が交わる機会を簡単に奪いました。隣国同士の戦争、南北問題の激化、目前に迫った超大国群の独裁政権化。自然災害は頻繁に日本各地を襲い、地球温暖化は加速を続けています。そんな地球規模の課題とエコツーリズムは関係ないと思われるでしょうか。否、その逆です。傷つくのは自然であり、発信力を持たない小さな地域や人々の声だからです。一方の主張や経済だけが正義とされてその他が封じられようとする今、こうした地域の宝を見つけてつなぐ、関わり、交わり、伝えていく。その積み重ねは社会を変える力になり得ます。その旅が世界の隅々に広がっていく、いつかエコツーリズムは世界の平和構築につながるのです。

この夢を道標として、200号を目指して引き続き発信してまいります。皆様の声をごんごんお寄せください。今後とも『季刊ECOツーリズム』をよろしくお願いたします。



注1) JES は設立時「エコツーリズム推進協議会」という名称だった。

# 特集 エコツーリズムの 業界をつくる 協会(JES)の役割

通巻100号を記念して特集では、次のステージに向けた取組への示唆を得るために「業界を作る意義とJESの役割」について、様々な立場の方からコメントをいただきました。エコツーリズムの取組が普及され、各地でエコツーリズム推進協議会が立ち上げられてきました。取組が進んでくると、安全管理やルールの周知等においてガイド同士の横の連携を図る必要性があげられ、ガイドのネットワーク組織の設立が求められてきます。先進的に取り組まれている地域ではエコツーリズム推進協議会やガイドのネットワーク組織が業界としての機能、役割を果たしています。全国的な業界としての動きにはなっていません。産業として確立しエコツーリズムにおける全国的な業界とは何かを見いだし、業界を作っていく意味や必要性、そしてJESの役割とは何かを、様々な立場の方の言葉から整理しました。

## JES会長 田川博己

一般社団法人日本エコツーリズム協会会長



### 横軸を通す業界の意義

日本は戦前から戦後にかけてずっと縦割り行政の社会の中で物事が動いてきました。その縦割り社会の中で、旅行業は横軸を通す役割を果たす業界だと常々考えていますが、やはり鉄道業や航空業、宿泊業などの縦軸の糸の事業体の方が強く、横軸の糸が細いのが現実としてあります。

世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)の理事を務めるようになり様々な国際会議に出席すると、横軸であるトラベル&ツーリズムの業界から、縦軸の業界を凌駕するような発言がたくさん出てきます。そういう国ではツーリズムがその国の中心的な役割を果たすことで色々な縦割り行政に横軸を通し、経済的に活性化してきたという背景があるのです。

いま日本の地方創生で最も必要かつ重要なのは、横軸を通す役割です。ツーリズムは時(ト)から「観光省」へという流れが必然であると考えています。

## 日本エコツーリズム協会(JES)の役割

エコツーリズム推進法は長年にわたるエコツーリズムの運動論の中で生み出されてきました。今後は生業(なりわい)論を育てていかなければ持続性が担保できないと考えています。

## JESの役割と、 エコツーリズムにおける 業界とは

日本におけるエコツーリズムの取組全体を俯瞰して協力しあえる関係を作ることがJESの役割だと思います。

各地のエコツーリズム推進協議会がゆるやかにつながり情報を共有するネットワークを作ること、エコツーリズムの普及・発展において非常に重要です。「ゆるやか」とした理由は地域ごとの個性、主体性を重視し、それを活かすためです。その上で自分たちの地域だけでは対応できないこと等に対する解決策を模索できるような連携には大きな意味があるでしょう。このネットワークのハブを担うことこそJESに大いに期待することであり、これを包括して日本のエコツーリズム業界と位置付けるのなら、それも良いでしょう。各地のエコツーリズム推進協議会の存在や活動はとても重要で、そのメ(メ)を

場の拡大と経済効果の向上だと思えます。そのためにも業界を作っていく意義は大きい。また、これまでの30年間で、エコツーリズムの主役を担うガイドの全国的なつながりが出来ていないのは、少しもったいないと感じていました。エコツーリズム推進協議会のゆるやかなネットワークキングを通してエコツーリズム業界を作る中で、現場で重要な役割を果たしているガイドらの地域を越えた連携も図られていくことを期待しています。



## 研究者 寺崎竜雄

公益財団法人日本交通公社常務理事

ンバーであるガイドや一次産業、宿泊施設、運輸業などに横ぐしを差してより良いWin-Winの関係を作り、エコツーリズムによる経済の活性化や、地域資源の保全、持続可能で活力ある社会作りを目指そうとする。さらにその輪を広げていくことは業界の役割そのものです。

その中でJESは現場の取組や課題を集めて実情を整理したり、国の施策の推進では現場の実働部隊との橋渡し役を担うなど、大いに力を発揮することができると 생각합니다。

## 次のフェーズへ 市場の拡大と経済効果の向上

エコツーリズムが日本に入ってきてから約30年、政府がエコツーリズム推進に本格的に取り組んでから20年、エコツーリズム推進法の施行から15年が経過しました。非常に息の長い取組であり政策です。次のフェーズにおける力点は市(シ)を

## ガイド 江崎貴久

海島遊民くらぶ代表、鳥羽市エコツーリズム推進協議会会長、伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会会長

## 地域における エコツーリズム推進の 業界の重要性

伊勢志摩では鳥羽市エコツーリズム推進協議会と、鳥羽市を含めた4市町で構成する伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会があります。協議会は体験事業者や漁協、宿泊施設、行政等で構成されており、地域の中でエコツーリズムを推進する業界としての機能、役割を果たしています。

これまでの取組では、初期の段階は研修会と一緒に技術や価格の向上を図ってきました。業として発展させていくために必要な技術や、価格競争に陥らないよう適正な価格設定の考え方を話し合いました。

また、取組を長く続けていると必ず災害やコロナなどの外部要因による危機が訪れます。その時に自分達の業が社会的に必要であることを地域の中で分かってもらえっていると、何とか危機を乗り越えようという力が働き助け合うことができます。私たちはコロナが収まった時に伊勢志摩から1つの事業者も減っていないようにしようと思ひ、企業体、個人事業主の間でガイド人材をやりくりして、海外へ行けなくなった修学旅行の受入の対応を行いました。この連携が出来たのは協議会が存在し業界団体としての動きができたからであり、危機を乗り越えられるかどうかは、その業の将来性が問われているのだと思います。

## ゾーニング戦略の意義と 10%の目標設定

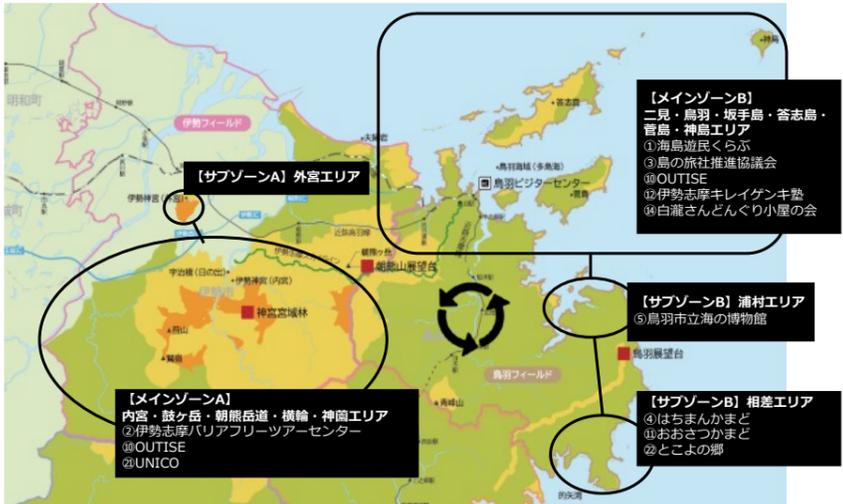
今後、体験事業が段々と観光の主流になっていくことを見据え、地域全体でのエリア戦略が必要と思ひ、下図のようなゾーニング戦略を作りました。

体験事業者が拡散して色々なところで事業を始めると、人の目が入らない場所等では皆の財産である自然資源がきちんと保たれて使われているのかわかりません。新規の事業者が増えるのは良いことですが、利便性が悪い場所では結局、事業者の発展にはつながらないので、ある程度体験事業者が集約されてエリアを使った方がお客様にとっても事

業にとっても良いという発想からゾーニング戦略は作られました。ゾーンが集約されていることで、バスを運行させようということがあるかもしれません。皆がゾーニング戦略に基づいて連携して体験事業を行うことで交通網や宿泊滞在にも影響力を持つことにつながります。非効率な動きをなくすことで事業者はより稼ぎやすい状態になり、管理もしやすい状態にし、そして皆が協力しやすい体制にもっていくための戦略なのです。

伊勢志摩は、年間で800万人から1000万人の観光客が訪れており、この10%の人に体験商品を購入してほしいと考えています。そのためには年間80万人から100万人の観光客を受け入れる体験事業者と、受け入れても壊れない、地元の人たちにも嫌だと思われない体制を作らないといけません。10%はけっこう高い目標ですが、10%の人に少しでも地域を知ってもらえると観光地としての雰囲気は必ず変わります。これが上質な空間、観光地を作っていくことにつながると考えています。

## 伊勢志摩ゾーニング戦略



# 特集 エコツーリズムの 業界をつくる 協会(JES)の役割

## ガイド 小林政文

ホールアース自然学校沖縄校 がじゅまる自然学校代表

### 「奄美・沖縄ガイドネットワーク」の設立

奄美群島と沖縄で活動している、ネイチャーガイドや通訳ガイド、マリンストラクター、民泊指導者など様々な最前線で活動している実践者が集まる場として「奄美・沖縄ガイドネットワーク」を2021年6月に立ち上げました。現在「acebook」のグループページで情報の発信、共有を行っています。登録者数は478名(2024年2月21日時点)となっています。

ガイドネットワークの設立はまさに業界を作りたというのが一番にあり、そのための一歩でした。活動の目的は共創、アップデート、チューニングです。共創は一人では出来ないことを皆で取り組み実現に結びつけること、アップデートは最新情報を得て事業に活かすこと、チューニングは様々な環境を整えていくことです。

活動は月に1回オンライン上で交流ミーティングとしてテーマを設定しゲストを呼んで講演してもらったり、メンバー内で話し合うなどの場を設けています。

毎月の交流ミーティングに参加するのは概ね20名くらいです。参加者数が少ないと思うかもしれませんが

んが、ミーティングに参加する人の方が変わり者なのだと思っています。本当は478名が参加してくれると嬉しいですが、ゆるやかな場であって良いと考えているので、FBに登録してくれているメンバーは全員仲間だと思っています。

### きっかけはガイドが業種として位置付けられていない現実

ネットワークを立ち上げたきっかけはコロナ禍で沖縄県の休業補償に申請しようとした時に、私たちがガイドという業種が補償対象の記載に明記されていなかったことです。沖縄県には多くの観光客が毎年訪れ、私たちガイドがマリンストラクターや自然に触れる体験の提供を支えているのに、業種にも位置付けられていないという事実を突きつけられました。沖縄県の観光に関する計画でもサステナブルやエコツーリズムは明記されていますが、それを支えるガイドが業種として認識されていないのです。私たちはいったい何者なのだろうと愕然としました。それを機に、仲間づくりを通して最前線の実践者らによる業界となっていくことを目指し、「奄美・沖縄ガイドネットワーク」を立ち上げました。



### 大坪弘和

沖縄・座間味村  
エコツアー・カラフルウェーブ

座間味村ホエールウォッチング協会の事務局に長く関わってきました。まずは地域の中でつながり、それが全国に広がると思います。ガイドツアーに参加する客層は全国各地のガイドツアーに参加してきています。ネットワークが広がり、パトンを渡すようにお客様を紹介しあえるのは大きなメリットであり、お客様にとっても安心感を提供できます。



### 川口 明

鹿児島・徳之島遊学 PROJECT

小学校の総合学習を活用した環境学習やSUP、トレッキング等のガイドツアーを行っています。徳之島は観光地としてはまだこれからの島なので、情報のアップデートや様々な視点、考え方に触れられると思います。ガイドネットワークに参加しました。沖縄からスタートしたこの会も、奄美群島のメンバーも少しずつ増え、益々広がりを見せています。

## メディア 鶴本浩司

トラベルボイス株式会社 代表取締役社長

### 旅ナカ・エクスペリエンス(体験)の主役に

私は1998年3月に沖縄で行われた日本エコツーリズム協会の設立総会に出席していました。当時、エコツーリズムに造詣の深い方々が一同に会していたのを覚えています。あれから25年が経ちますが、日本のエコツーリズム推進において事業化が課題としてあるのは事業にする方法が理解されていない点が挙げられると思います。海外のエコツーリズム先進地では、ごく一般的なことでありますが観光ガイドとは異なるネイチャーインテグレーションの存在がエコツーリズムの事業化を支えています。日本では結果としてネイチャーインテグレーションの育成や仕組みが出来ていないというのが25年間の印象です。昨年9月に北海道で行われました「アドベンチャーラベル・ワールドサミット北海道・日本」でも世界中から訪れた参加者からのフィードバック



の中に、物語を語る人への課題が挙げられています。この課題は言語の問題ではありません。自然やアイヌ文化との触れ合いはありますが、それらの詳細や背景等に関する説明が十分ではなかったことが明確に指摘されていました。インテグレーションが欠けていたのです。日本の旅行において旅ナカのエクスペリエンス(体験)が重要視されてきたのはここ10年くらいです。それまでは物見遊山の観光が主でした。体験を通して自分で理解するという旅のスタイルは始まったばかりで、まだ市場が育っておらず、海外でエコツーリズムやアドベンチャーラベルなどを求める層に比べられるレベルに達していないという面があるのだと思います。今後、アドベンチャーや知的好奇心を満たすエクスペリエンス(体験)はますます拡大していくでしょう。その中でエコツーリズムはこれからの旅行の主人公になれると思っています。



## OTA 武部光子

ベルトラ株式会社  
国内事業部部長

### 質の確保と、その土地や自然を守る仕組みが持続性の鍵

日本は総じて海、山、川が美しくそれらの大自然を目的に、旅行の計画をされる方も多いと思います。特色を生かして土地の魅力プロモーションすることが大切ですが、その中で重要な要素となるのは人であり、人が語るストーリーとなるのではないのでしょうか。現地のガイドさん達の豊富な知識と土地への想いを重視し、ベルトラのツアー造成ではそれをどう伝えるかを大切にしています。

ガイドが事業として成り立つためにも、質の高いガイドインは必須です。ガイド同士の横の連携を築き、質の確保や、土地を守り自然を守りながら多くの人に訪れてもらう取組は、大きな意味があると思います。観光地としての利用のルールを理解し守ってくれる仲間を増やし、世代交代が図られ循環していくことが、観光業の持続性と活性化を図る上で重要です。

ガイドさん達のネットワークや、エコツーリズム推進協議会が窓口となってガイドや飲食店、宿泊施設などを紹介していただけると非常に心強く、エコツーリズムという視点がすでに共有できていることで、土地のストーリーを大切にしたいツアーを作りやすくなります。

また、エコツーリズムは自然だけを指すのではなく、自然に育まれて生まれた文化や伝統も含まれており、色々なツーリズムを包括しています。一般の消費者の感覚では自然豊かなところ、自然を守るツアーという印象が強いですが、文化や歴史を合わせて観ていただけるような工夫も必要なのではないかと思っています。

## 保険 宮田 陸、添野夏実

三井住友海上火災保険株式会社

企業営業第五部 航空旅行課

### エコツーリズムの推進は当社の信念とも業界の責務とも一致

2022年10月に「エコツアー向け保険」は当社の引受で団体契約という形で新しくスタートしました。きっかけは当時の引受会社(ジェイアイ傷害火災保険)が賠償責任保険の販売を停止されるということで、当社に2022年の春頃に相談をいただき、エコツアーの発展に少しでも貢献できればという思いがありましたので、引受について前向きに検討を始めました。

当時から全く事故が無いわけではなく一定数の事故が発生しているという情報がありましたので、事故を未然に防止することも保険会社の使命だと考えており、少しでも事故を減

らしながら、安心して普及活動を継続してもらえればという思いから引受を検討したのが営業としての思いです。保険会社としても新しい挑戦を後押しすることは業界の使命であり、エコツアーの事業の継続は新しい挑戦だと思

います。万が一なにかあっても、負担をバックアップすることで事業を後押しすることが私たちの役目であり、損害保険会社の責務だと思っています。

また、当社の中期経営計画の中でも「地球環境との共生を掲げています。気候変動への対応、生物多様性を含む自然資本の持続可能性向上に取り組んでおり、当社の中期経営計画との親和性も高いと考えており、エコツーリズムを推進していく意義と重なる部分があります。エコツーリズムの推進は当社の信念とも業界の責務とも一致していました。

### 業界をつくる意義ーWin-Winになるスキーム

エコツアー向け保険は手続きが非常に簡便なところと必要な補償を漏れなく提供する仕組みを構築できています。各地のエコツーリズム推進協議会のネットワークを作り、各協議会に所属するガイド事業者がエコツアー向け保険を利用できるようにすれば、協議会、ガイド事業者、日本エコツーリズム協会それぞれにとってWin-Winになる素晴らしいスキームだと思っています。業界という大きな枠組みがあることで保険による安心感を提供し、ネットワークの強化を支えていきたいと思います。



# 住民も旅行者も満足 する観光地を目指す ハワイの取り組み

ミツエ・ヴァーレイ (ハワイ州観光局 日本支局 局長)



## ハワイ州・ アメリカ合衆国

ダイヤモンドヘッド ©Hawaii Tourism Authority \_ Vincent Lim



ハナウマ湾自然保護区 (入場エリア、海洋教育センターでの展示や来場者の教育ビデオ視聴の様子) ©ハワイ州観光局

よる交通渋滞の解消や自然への負荷軽減、雇用促進など地元住民の生活環境が改善するといった変化が生じています。また、住民が観光に関わり地域を適切に管理するスチュワードシッププログラムの開発や教育事業が始まっています。適切に管理された環境に旅行者も快適に楽しむことができるが高評価を得ています。一方で、コロナ禍から現在においては、米本土からの急激な旅行者増、これまでとは異なる客層の訪問、環境の変化等があり、具体的な成果はまだ数値に表れていませんが、デスティネーション・マネジメント・アクションプランの認知度は少しずつ伸びてきており、住民と旅行者の軋轢を回避するための観光管理の成果が今後見えてくることが期待されています。

**観光戦略の主要業績評価指標 (KPI) としての「住民の満足度」**

2019年にハワイ諸島への訪問者数は過去最高の10338万人に達しました。177億5千万ドルの経済効果をもたらし、20億7千万ドルの税収入、21万6千人の雇用を支えています。観光業はハワイ州国内総生産 (GDP) の16%を占め、ハワイにとって重要な産業です。一方で訪問者数の増加等は、一部の観光地や地域社会の環境に負荷を与える要因にもなっています。HTAは住民の意識は健全な観光産業を維持するために重要な要素と考え、1988年から定期的に観光に対する住民意識調査を実施してきましたが、旅行者数が増えるにつれ観光業に対する住民の意識が低下しました。HTAは観光戦略プラン2020〜2025において「住民の満足度」を高めることをKPIに設定しました。

直近の2023年春に実施した住民の意識調査では「観光は問題よりも利益をもたらす」と回答した住民は全体の半分でした (右グラフ)。また、住民の間で観光が引き起こす問題

### 観光業に対する住民の意識の推移



調査対象：ハワイ州12地域 (1960 サンプル)  
 調査方法：調査会社による電話インタビュー (24%) 及びオンライン調査 (76%)  
 調査期間：2023年5月5日 - 6月22日  
 出典：「2023年春のハワイ住民意識調査」

として、「環境へのダメージ」(75%)、「過密状態」(74%)、「物価の高騰/生活費の上昇」(73%)などがあげられていましたが、これらの背景には、コロナ禍では本土からのリベンジ旅行による急激な観光客の来島や初めて訪れるファーストタイムが増えたこと、SNSの影響で地域住民の生活等に悪影響がでたことなどさまざまな要因が絡んでいます。

一方で、近年、旅行者が地元の人や生活文化に触れ、環境をより良い状態へ再生することに貢献できるツアーやビーチクリーン活動等に参加できる再生型観光 (リジェネレティブ・ツーリズム) の体験プログラムも増えてきています。また2023年には、HTAは旅行者の安全上の理由やハワイの自然や文化史跡の保護、そして地域や住民への配慮が必要な「センシティブ・デスティネーション&アクティビティ」の地図を作成し、旅行業界やメディアへの公開を通じて、ハワイが取り組んでいる持続可能な観光業に対する理解を深めています。

### 思いやりの心でハワイの 伝統や文化を受け入れる 「マラマハワイ」の 体験ツアー

オアフ島北東部に位置する「クアロアランチ・ハワイ (以下クアロア)」は、かつては王族しか入ることが許されなかった神聖な土地でしたが、現在は4千エーカーの私有自然保護区を維持し、乗馬やロケ地ツアーなど、様々なアクティビティを提供しています。観光業、地元の子供たちへの教育プログラムの提供、

観光業はハワイ経済において大切な産業で、持続可能な社会の実現に向けて産業そのものが持続可能であることが求められます。そのためには、住民の生活の質がより豊かになり、旅行者の体験がより良いものであれば観光業は持続しません。そこで、ハワイの観光戦略は観光資源でもある自然を守り、ハワイ固有の文化を継承し、地域社会を活性化し、ハワイのブランド力をより強固にしていくことを軸にしています。2011年に Honolulu でアジア太平洋経済協力会議が開催された時に、ハワイ州政府、文化・経済・学術団体等により「ハワイグリーンングコース」という任意団体が設立されました。「ハワイグリーンングコース」は、持続可能な社会の実現のためにハワイ版SDGs「アロハプラスチャレンジ」を構築し、2030年目標にむけた達成状況を確認するための共同指標「ダッシュボード」を開発し

### 地域住民と旅行者の満足度を高める 持続可能な観光業を目指す 「ハワイの観光戦略」

直近の「ハワイ観光戦略プラン2020-2025」は、州民と旅行者の満足度を高める持続可能な観光業を目指し、自然資源、伝統文化、地域社会、ブランドマーケティングの4つの「柱」を中心に編成されました。また、主要業績評価指標 (KPI) は訪問者数で計測するのではなく、「住民の満足度」、「旅行者の満足度」、「1日の旅行者の平均消費額」、「総旅行者消費額」に設定されています。しかし直後に世界的なパンデミックとなり、航空会社の運航が止まり、島外から旅行者が来られない状況になりました。経済的な打撃は大きかったものの、自然環境の改善が見られ観光業によって生じていた社会問題が改善されました。ハワイ・ツーリズム・オーソリティー (略HTA、注1) は、カウアイ島、マウイ・ヌイ (マウイ島、モロカイ島、ラナイ島)、オアフ島、ハワイ島の各郡および各島の観光局と協力し、2021年から2023年までの3年間で観光産業の安定化、パンデミックからの回復、そして各島が望む観光産業への再構築のための地域密着型のデスティネーション・マネジメント・アクションプランを作成し、観光の再建、再定義、方向性の再設定を目指しました。

2022年頃からこのアクションプランに基づいた具体的な取組が始まりました。住民旅行者がともに満足する持続可能な観光の取組の一例として、カウアイ島のハエナ州立公園、マウイ島のワイアナパナパ州立公園、オアフ島のダイヤモンドヘッド州立自然記念碑公園とハナウマ湾自然保護区で事前予約制を導入したことで、周辺地域で深刻化していた観光に

### アクセス

ハワイへは羽田空港及び成田国際空港からは毎日直行便が運航しているほか、関西・中部国際空港や福岡空港からも直行便が出ています。オアフ島にあるダニエル・K・イノウエ国際空港までは日本からおよそ7時間程度です。



連絡先  
<https://www.allhawaii.jp>



注1) HTA：ハワイ最大の雇用を創出する観光産業を戦略的に支援、管理するために1998年に設立されたハワイ州の観光振興機関

## 第15回全国エコツーリズム学生シンポジウム開催報告 未来につなげるエコツーリズム

2023年12月2日（土）に「第15回全国エコツーリズム学生シンポジウム」を立教大学池袋キャンパスにて開催しました。昨年の第14回開催に引き続き、今年も対面開催をすることが出来ました。日本各地から応募があり、多様な発表が見られました。

### 基調講演、日本航空の「パートナーシップで進めるエコツーリズム」

基調講演では「パートナーシップで進めるエコツーリズム」というテーマで日本航空株式会社の越智様にご登壇いただきました。学生のシンポジウムですが、企業がエコツーリズムや環境保全に対してどのような考えや、取組を行っているのかを知るため、越智様にお話をいただきました。日本航空が地域や地元企業などと連携し、観光資源の掘り起こしから、現地での受入体制の確立まで一貫して取り組んでいて、非航空事業の側面でもかなり力を入れている姿が印象的でした。また、移動を通じた関係・つながりを創造することで社会的・経済的価値を創出し、企業価値の向上につなげるという理念を、日々の取組や実践を通じて体現し

ていると感じた基調講演でした。

### 日本、海外、そしてテクノロジー分野の多様な研究発表

今年度の研究発表では4組の学生が登壇しました。昨年さらに研究を重ねてパワーアップした事例を紹介した学生や、テクノロジーと観光という今までにあまり類を見ない独創的な発表をした学生もいました。地域課題を見つけ、それを解決するために学生の視点のアイデアを形にし、実行に移すという彼らの行動力があるからこそ、シンポジウムという舞台でも自信を持って取り組むパワーがあるのだと深く感じました。各発表者がユニークなアイデアを堂々と伝える姿勢に感銘し、同じ学生として心打たれるものがありました。

### 高校生を迎えた初めてのポスターセッション

ポスターセッションでは、初の試みとなる高校生の参加枠を設けました。高校生らしい純粋な心持ちでエコツーリズムとは何かを考えてい

る姿がとても印象的でした。11組の学生ポスターを準備して発表しましたが、各ポスター前で興味深い質問や議論が交わされており、時間ギリギリまで盛り上がっていたことが、運営の立場として何よりもやりがいを感じた瞬間でした。

コロナウイルス感染症の拡大がおさまりを見せつつあるなかで学生シンポジウムを無事開催することができました。基調講演いただいた日本航空の越智様をはじめ、関係者、参加者の皆様へのお礼を申し上げます。今後はイベントやエコツアー参加などコロナ禍前の本来の学生部の活動を行えるよう、盛り上げながら学生部の規模を大きくしていきたいと思



基調講演



ポスターセッション



研究発表



集合写真

新規メンバー  
募集中！

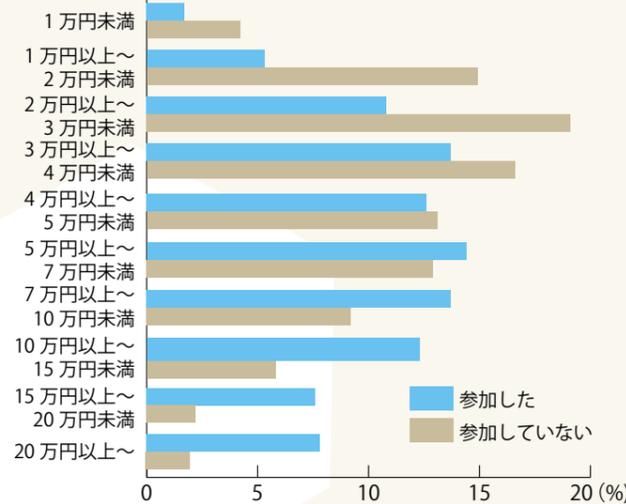
### 学生会メンバー募集中！

・観光やエコツーリズムに関心がある・シンポジウムの運営をしてみたい！  
という方は学生会まで個別にご連絡ください！  
一緒にシンポジウムを盛り上げましょう！



JAPAN AIRLINES

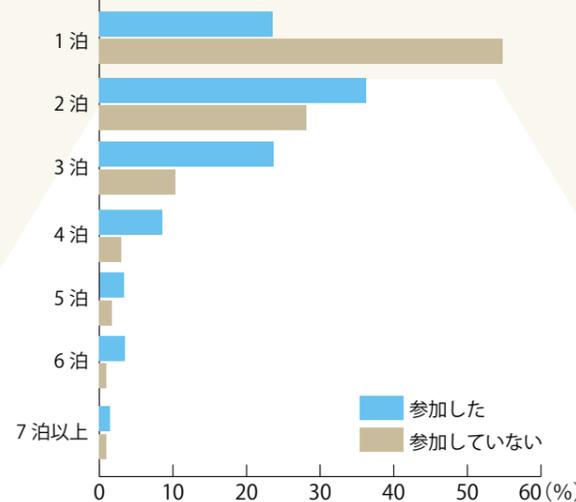
図1 現地ツアー等参加有無×旅行単価



現地ツアー等参加ありの旅行単価 7.7万円  
現地ツアー等参加なしの旅行単価 5.0万円

出典：公益財団法人日本交通公社「JTBF 旅行実態調査（2019）」より作成

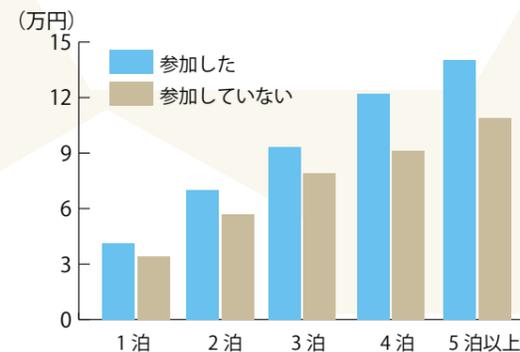
図2 現地ツアー等参加有無×泊数



現地ツアー等参加ありの泊数 2.44泊  
現地ツアー等参加なしの泊数 1.77泊

出典：公益財団法人日本交通公社「JTBF 旅行実態調査（2019）」より作成

図3 現地ツアー等参加有無×泊数別旅行単価



出典：公益財団法人日本交通公社「JTBF 旅行実態調査（2019）」より作成

(注1) (公財) 日本交通公社「JTBF 旅行意識調査」  
(注2) トリップベースの現地ツアー等参加率に旅行経験率を乗じ、平均旅行回数で除して算出した。現地ツアー等参加率：(公財) 日本交通公社「JTBF 旅行実態調査」/ 旅行経験率・平均旅行回数：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

五木田 玲子  
公益財団法人日本交通公社 観光研究部 市場調査領域 上席主任研究員  
専門は旅行市場分析、観光統計、地域資源の活用

※本原稿は、(公財) 日本交通公社機関誌『観光文化』258号「特集3 エコツーリズムがもたらすこと」の一部を加筆編集したものである。

## エコツーリズムの 現場から

100

## エコツアー等の市場規模 ～エコツアーがもたらす 経済効果について

五木田 玲子

### エコツアー市場の 年間参加率は1～5%

少し古いデータになりますが、過去1年間のエコツアー参加経験率は、2016年で0.9%（注1）でした。日本人の100人に1人、約120万人が1年に1回以上エコツアーに参加したことになります。一方、エコツアー以外のまち歩きや、陶芸体験などのいわゆる体験プログラムなども含めた現地ツアーやオフショナールツアー、体験プログラム（以下、現地ツアー等）となると、参加経験率は約5倍の5.3%（2016年）（注2）になります。エコツーリズムは、自然環境だけでなく歴史文化も対象に含まれる広い概念であり、エコツアーと認識せずに参加している人もいることから、エコツアー市場における年間参加率は1～5%と考えられます。

### 現地ツアー等参加者は 旅行単価が高く泊数も長い

次に、エコツアーを経済的な側面からみると、どのような効果があるのでしょうか。旅行にかかった総額を、現地ツアー等に参加した人と、参加していない人別に見たものを図1に示しました。現地ツアー等参加者の旅行総額の最頻値は5～7万円未満、平均単価は7.7万円に対し、非参加者の最頻値は2～3万円未満、平均単価は5.0万円。ごく単純な試算にはなりますが、現地ツアー等がもたらす経済面でのインパクトとして、旅行単価に2.7万円の差がありました。現地ツアー等の参加有

無別に宿泊泊数の違いを見てみると図2、現地ツアー等参加者は平均2.44泊に対し、非参加者は平均1.77泊となりました。このように、現地ツアー等参加者は、非参加者に比べ、旅行単価が高く、泊数も長くなっています。さらに、泊数を揃えて旅行単価を比較したところ、いずれの泊数においても、現地ツアー等参加者の方が高いという結果となりました（図3）。例えば1泊で比較すると、現地ツアー等参加者と非参加者との7千円の差が生じています。本調査では費目の内訳は把握できていませんが、この差額は、現地ツアー等の参加費に充てられているだけでなく、ツアーへの参加経験によって触れられた地域への興味・関心や思いから、地域での飲食や土産などの消費にもつながっていると考えられます。

# 日本の 世界自然遺産を旅する

世界自然遺産地域への旅。その旅の目的は、自然を知り、理解し、楽しむと同時に、環境保全や地域に貢献することではないだろうか。世界自然遺産登録の道のりは、「自然美」「地形・地質」「生態系」「生物多様性」の4つの評価基準の二つを満たすだけでなく、自然と関わりあいながら、自然本来の姿を長く維持し、保護管理してきた人の歴史もある。それぞれの地域が有する自然の特徴を観察しながら、世界自然遺産地域を訪れる旅に出かけてみてはどうだろうか。

自然の特徴  
やんばる  
生物多様性  
白神山地  
生態系

「アソビュー！」掲載  
やんばる・白神山地の  
極上エクスペリエンス

【沖縄県北部】沖縄県やんばるの森では、生い茂る木々の間を歩き、岩場を飛び越え、川で泳ぐ、野性味あふれる冒険を。天候条件やお客様の体力に合わせて、インストラクターがルートを選択することで、安心してやんばるの森を堪能していただけます。

柳瀬 正大 (アソビュー株式会社)

【白神山地】白神山地の恵みを生かした至高の一品「白神焙煎炭焼珈琲」の焙煎体験。地元産のリンゴの剪定枝や木炭を用いて炭焼き焙煎され、遠赤外線効果で芯からふっくらとした豆を実現。その結果、香り高くまろやかな味わいが特徴です。白神山地の超軟水を使用し、老舗の技術で淹れることで、一級品の味と香りを提供します。地域の素材と伝統を生かした唯一無二のコーヒー焙煎体験です。



ツアー情報



YAMBARU

SHIRAKAMI

自然の特徴  
屋久島  
自然美  
生態系

「そらまめキッズアドベンチャー」企画  
世界自然遺産・太古の森へタイムスリップ  
2024そらまめ屋久島  
大冒険キャンプ

長沼 温実 (株式会社そらまめキッズツアー)

そらまめキッズアドベンチャーは、子ども専門の体験型ツアーを企画・実施している旅行会社です。北は北海道、南は沖縄まで、日本全国さまざまな地域での、野外体験キャンプを実施中。屋久島大冒険キャンプでは、『縄文杉』に代表される太古の木々に覆われた圧倒的スケールの山と森を体感。樹齢7000年の縄文杉を目指します。各種体験には、現地ガイドやそらまめキッズの引率がつき、お子様のペースに合わせて体験をサポートしています。



ツアー情報



YAKUSHIMA

自然の特徴

小笠原諸島  
生態系

「JTBロイヤルロード」企画  
JTBチャータークルーズにっぽん丸で航く  
小笠原クルーズ6日間

渡部 凌 (株式会社JTB ロイヤルロード事業部)

船でしか行けない世界自然遺産、小笠原諸島。底抜けに明るい海の青を指して「ポニブルー」と呼ばれる海ですが、夏はそれが最も感じられる季節です。今回は父島に1泊泊し、多くの寄港地観光を通して「さまざまな角度から小笠原の大自然を満喫してもらいたい」。そんな熱い想いを企画に込めました。絶滅危惧種アオウミガメの保全活動に参画した放流イベントも必見です！豪華客船にっぽん丸に乗船し、JTBスタッフとともに優雅な船旅へ一緒にしませんか？



ツアー情報



OGASAWARA

©小笠原村観光局

自然の特徴

奄美大島  
生物多様性

「HIS」企画  
「マンングローブカメラ」または  
「半潜水式水中観光船」で  
自然を楽しむ奄美大島

「マンングローブカメラ」と「半潜水式水中観光船」の選べる体験を通して奄美大島の自然を感じ、癒される3日間の旅行になります。「マンングローブカメラ」は、広大なマンングローブでしか見ることのできない貴重な自然や生物を間近で見られます。「半潜水式水中観光船」は、美しい珊瑚礁や熱帯魚の群れなどの豊かな水中世界を間近にお楽しみいただけます。静かな森と美しい海に囲まれた隠れ家リゾート「ホテルカレッタ」に宿泊でゆつくりと過ごしていただけます。



ツアー情報



AMAMI-OSHIMA

©小笠原村観光局

自然の特徴

知床  
生態系  
生物多様性

「HISエコツアーデスク」企画  
森と海から野生動物の  
楽園を感じる！  
世界遺産 知床3日間

野生動物の楽園と称される知床。彼らの生息する森や海にお邪魔し、彼らの生活に影響がないよう配慮しながら、専門ガイドと共に世界遺産登録の所となった知床の野生動物を観察してみませんか。海に出ればシャチやクジラを間近で観察でき、森を歩けばヒグマやエゾシカの生活跡に触れる事ができます。世界でも類を見ない特異な生態系を持つ、ありのままの知床を存分に体験していただきたいと思えます。

ツアー情報



SHIRETOKO



東京都と公益財団法人東京観光財団は、国内の世界自然遺産登録地のある北海道、青森県、秋田県、鹿児島県、沖縄県と連携し、世界自然遺産のブランドイメージを活用した観光振興事業を実施しています。本ページで紹介しているツアーやアクティビティ等は本事業を通じて旅行会社が企画したものです。詳細や申込についてはそれぞれの旅行会社にお問い合わせください。

▼ウェブサイト 「日本の世界自然遺産」  
▼デジタルパンフレット 「世界自然遺産で2030年までにしたい30のこと」



## スペインの地方自治体による「エコツーリズムの祭典」開催 スペイン政府観光局

### 国内外の注目を集める 「エコツーリズムの祭典」

2023年9月15日から3日間にわたり、スペインの中央に位置するカスティージャ・イ・レオン州のルエスガ村で「エコツーリズムの祭典」が開催されました。30人ほどの住民が暮らす小さなルエスガ村の一角には、3500㎡の巨大テント6基とイベントテント10基が設置され、各地からフードトラックが集結し、スペイン国内外の旅行会社15社が商談会を行ったほか、90団体がブースを出展しました。一般来場者も1万人を超え大盛況でした。また、イベント会場から30km圏内にある宿泊施設は、開催1週間前から100%の稼働率となりました。

祭典が開催されたルエスガ村は、スペインの首都マドリードの北に広がるカスティージャ・イ・レオン州のパレンシア県に位置しています。同州は9県で構成されたスペイン最大の面積を有する自治州のひとつで、古代ローマ時代の水道橋があるセゴビアやスペイン最古の大学があるサラマンカなど、ユネスコの世界遺産を有する街があり、日本でも人気の高い観光地です。また、同州はワインの名産地で、山々に囲まれた高原が広がり、国立公園2か所、自

然公園14か所の他、多くの自然保護区を有する自然豊かな地域で、積極的にエコツーリズムのプロモーションに取り組んでいます。その一つが今回紹介する、カスティージャ・イ・レオン州が州内の市町村等と連携しながら毎年開催している「エコツーリズムの祭典」で、国内外で年々注目度が高まっています。

今年で6回目を迎え、州と開催地ルエスガ村があるパレンシア県のセルペラ・デ・ビスエルガ市との共催で行われました。開催の主な目的は、観光セクターの連携強化や、エコツーリズムと農村開発のアイデアやイニシアチブの推進と広報、関連企業による商品紹介や商談会の実施等により、エコツーリズムと農村開発への関心を高めてもらうことが狙いです。

### テーマは「開発と保全の狭間にある山の生活」

第6回目のテーマは「開発と保全の狭間にある山の生活」で、講演、2本の映画上映のほか、ワークショップやエクスカッションなど体験型のプログラムが用意され、持続可能な山岳観光とその保全に焦点を当てた一般来場者向けのイベントも多数開催されました。



地元の小学生の参加 ©NATURCLY

地域の若い世代の環境教育の場としての役割も担っており、学校行事の一環として地元の子供たち350名もイベントに参加し、地域の様々な魅力やエコツーリズムの取組について学びました。

ユニバーサルツーリズムの取組も盛んで、エクスカッションには車いす利用者向けのプログラムが設けられ約100名が参加しました。ガストロノミーもこのイベントの大事な要素の一つで、チーズやパン、オリーブオイル、はちみつなど各地の特産品やオーガニック食品の試食や販売、ワインの試飲等も行われました。

また、世界15か国から2500作品が応募した春の「第6回自然景観写真コンクール」の受賞作品の展示も会場内で開催されました。エコツーリズムを柱とし、関連する企業や団体、旅行会社などが一同に会する機会であり、さらに一般来場者にとっても様々な体験プログラムや、こだわりの商品を楽しむことができる貴重な場となっており、祭典は年々存在感を増してきています。次回、第7回目は2024年9月18日から22日に同州セゴビア県ラグランハで開催予定です。日本の皆様の参加をお待ちしております。



ルエスガ村の会場の様子 ©NATURCLY



各地の特産品の試食販売 ©NATURCLY



車いす利用者の参加の様子 ©NATURCLY

## 1 日本サステナブルツーリズムイニシアティブ (JSTI) 発足

3月13日、一般社団法人日本サステナブルツーリズムイニシアティブ (JSTI) の設立イベントが都内で開催されました。JSTIは、JES、アジア太平洋観光交流センター (APTEC)、日本旅行業協会 (JATA)、JTB総合研究所が発起人となり、事業者・旅行者・地域住民が連携してツーリズムにおけるサステナビリティを实践するプラットフォームとして発足。JESから運営役員の山田桂

一郎氏 (JTIC.SWISS代表) が理事に就任、同じく運営役員の橋本俊哉氏 (立教大学観光学部教授) も理事として参画しています。

開会の挨拶でJESの会長でもあるJSTIの田川博己代表理事・会長が、2030年のSDGs目標の達成に向けて、「観光セクターに携わる業界内外の関係者が、サステナブル推進に向け、心と想いを一つにしていく場を作ろうと考えた」と設立の経緯を説明。設立目的は「サステナブルツーリズムの定義に賛同し、ニューノーマル時代の中で新しい潮流、新領域を視野に入れながら、その推進に関心の高



い団体が集い、日本のライフスタイルや価値観を踏まえた実践的かつ持続可能な観光交流のフレームをともに作り出して普及させ、実践させることにある」と語り、「長年にわたり持続可能な地域づくり、環境保全と観光利用を進めてきた日本エコツーリズム協会

とも連携し、観光事業者や旅行者へ観光地域の声を届け持続可能な地域づくりを進めたい」と述べました。

その後の理事パネルディスカッションにおいても、地域の自然環境や歴史、文化、生活を観光で伝え、自然保全につなげていくエコツーリズムが既にサステナブルツーリズムの取組事例であること等ふれられていました。

JSTIは、4月1日より具体的な活動をスタートさせ、初年度はサステナビリティへの理解を深め、取組を発掘しその輪を広げるための、観光とサステナビリティの基本的な考え方を理解する機会の提供、観光地域でサステナビリティを推進する人材育成の支援などを行っていきます。

JSTI

<https://jsti.jp/>

## 2 ガイド講習会、エコツーリズム推進法勉強会開催 八ヶ岳観光圏エコツーリズム推進協議会

11月27日から3日間にわたり八ヶ岳自然文化園 (長野県原村) にて「エコツーリズムガイド講習会in八ヶ岳観光圏」を開催しました。講習会へは北杜市や原村、富士見町、茅野市、小淵沢町などから23名の参加を得ました。交流会まで含めたガイド講習会の開催は大変久しぶりでしたが、参加者同士の交流を深めるとも貴重な機会となりました。

主催は八ヶ岳観光圏エコツーリズム推進協議会 (以下、協議会) で、八ヶ岳観光圏は北杜市、富士見町、原村の3市町村を含むエリアを指し、観光圏整備法に基づき国土交通省から認定を受けている地域です。

協議会の事務局は一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが担っており、3市町村におけるエコツーリズム推進のために、八ヶ岳観光圏

戦略会議を母体とし昨年度、協議会が設立されました。八ヶ岳ツーリズムマネジメントはDMO法人であり、マーケティング、マネジメントとエコツーリズムを融合させた取組が可能です。

今年度は、エコツーリズム推進法に関する勉強会と、ガイド養成講習会の開催について当会で受託、実施しました。来年度は、エコツーリズム全体構想の作成に取り組む予定です。

## 3 インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援 長浜観光協会

滋賀県長浜市は琵琶湖の西北岸に位置し、黒壁の街並みや、天女の羽衣伝説のある竹生島などが観光の中心です。新たなコンテンツ開発として、これまで観光に活用されてこなかった市北部の自然や文化を活用したプログラムの開発と商品化に取り組んできました。環境省のエコツーリズム人材育成研修に参加したのを機に当会にて、エコツーリズムの視点を取り入れた外国人向けモニターツアー、ガイド講習会、フォーラムの開催などについて企画運営を受託しました。

これまで観光が盛んではなかった市北部には、琵琶湖の水源地となっている森や、鉱山跡地、自然と共に育まれた集落の暮らし、醤油や酒蔵など、魅力的な資源があります。これらの資源は

様々な団体や個人によって大切に守られてきました。資源を活用するためには住民の理解と利用のルールが必須です。また、資源を保全維持するためには観光の力を取り入れることが求められているとも言えます。

今年度、外国人向けツアーの商品化に取り組み、地元ガイドと地域通訳案内士が連携したツアーを企画実施しました。細かな点を改善し、観光協会と連携した広報や集客について体制を整え恒常的な販売を目指します。

また、資源を守りながら活用し、経済的な循環をもたらす仕組みをエコツーリズムの推進を通して構築していくために、エコツーリズム推進全体構想の作成を後押ししていきます。



エコツーリズムの祭典  
サイト



カスティージャ・イ・  
レオン州のサイト

TURESPAÑA

